

第8回の介護職員初任者研修スタート

グループ外からも受講生が参加

第8回の介護職員初任者研修（倉持裕子校長）の開校式が6月4日、城西病院会議室で開かれました。これまでコロナ禍の感染拡大防止のために、達生堂グループ外からの受講生の受け入れを停止していましたが、4年ぶりにグループ外の受講生を受け入れて、研修が行われます。

研修には城西病院職員が4人、社会福祉法人達生堂の職員が4人、公益財団法人茨城茨城国際親善厚生財団（IIFP）の職員2人、そしてグループ以外から2人の計12人が受講します。

開校式で、白石裕比湖・城西病院理事長は「毎週、講義や実技が行われ、看護に対する知識と技能を習得していただき、自信をもって介護に当たれるようになってほしい。周りには介護を必要とする人が多くいます。ここに集まった仲間と情報を共有し、実りある研修にしてほしい」と激励。倉持校長は「介護される人の身体だけでなく、心にも寄り添っていく必要が



ある。研修は、仕事や家庭との両立が必要不可欠で、130時間の講義と実習をこなし、全員で卒業してほしい」とあいさつしました。

研修は、12月まで毎週土曜日に開かれ、「人間の尊厳や自立に向けた介護」「安全衛生」「介護と医療の連携」「認知症」「入浴と清潔保持」など幅広い領域を学習し、修了試験に合格して資格が取得できます。

開講式が終わると早速講義が始まり、受講者は真剣な表情で取り組んでいました。 2021年6月6日

